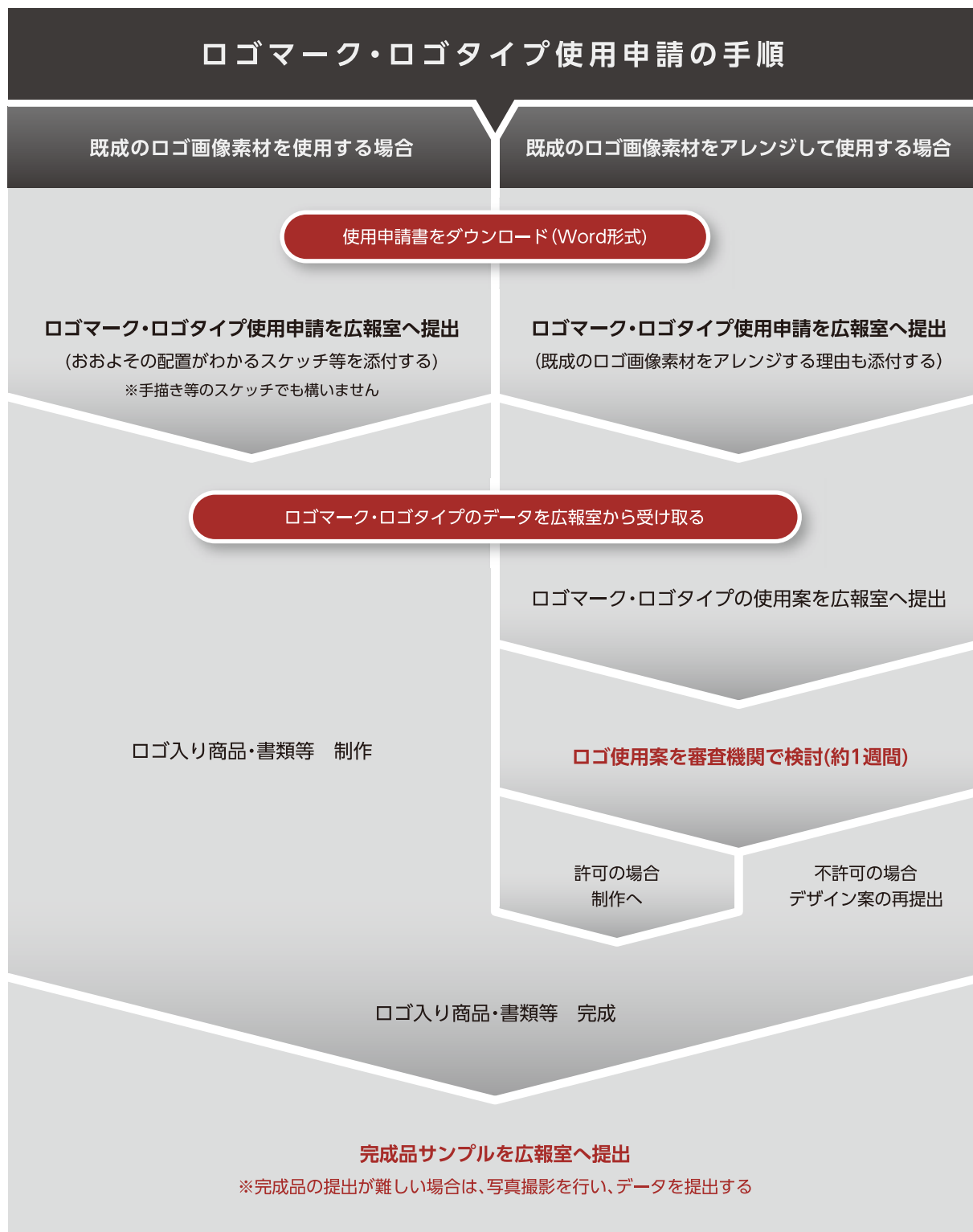


2-1 使用申請から報告まで

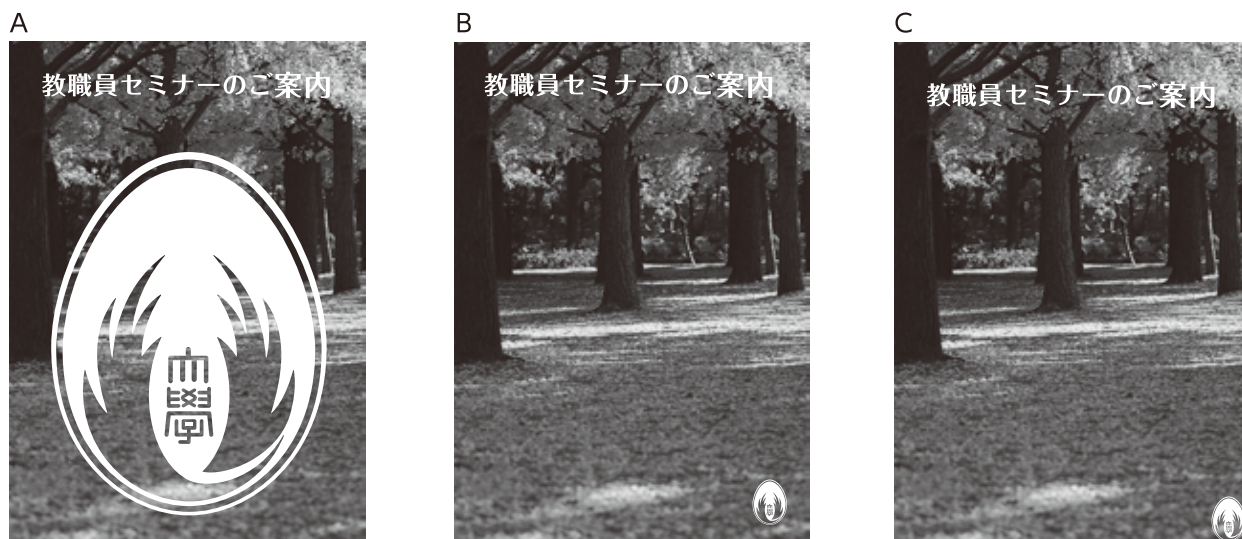


※ロゴ使用申請の提出からロゴデータをお渡しするまで、1週間程度かかる場合があります。

※ロゴ使用例（書類、パワーポイント等）のテンプレートは、以下のサイトでダウンロードできます。ご活用ください。

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/logo/index.html>（随時更新しています）

2-2 基本要素の配置について



A～Cのロゴマーク配置案を比較してください。

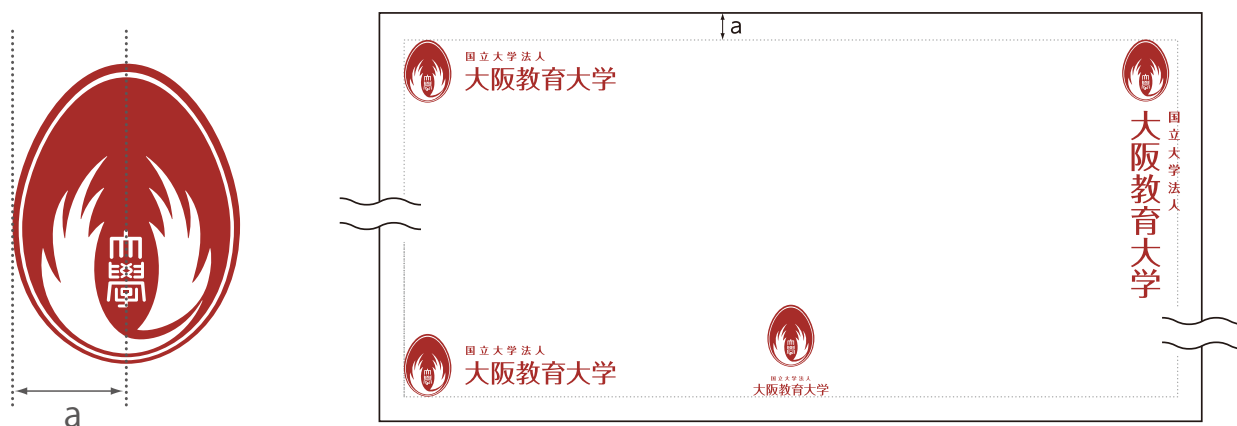
A案は、とてもインパクトのある画面ですが、写真、タイトル、マークの各要素が画面内でぶつかり合い、調和に欠けるデザインといえるでしょう。

ロゴマークは、小さく表示しても存在感が得られるようデザインしています。故に、A案のように大きく用いると、主張が強すぎるため、どこことなく騒々しい印象を与えてしまいます。ロゴマークを冊子の表紙やポスター等に配置する場合は、B案のような、控えめな配置が一般的かつ適切です。ここで注意すべき点は、マークの周囲に一定の空間を与えることです。

C案は、ロゴマークの周囲に十分な空間が与えられておらず、(B案と比較して)卵形のシルエットが判りにくくなっています。また、どこことなく自信の無い、弱々しい印象を与えかねません。

ロゴの周囲に一定の空間を確保することにより、卵形のシルエットも明快となり、小さいながらも堂々とした印象を与えます。

※本冊子表紙のように、マークに若干の加工を施し、配置を工夫することで、イメージイラストとして使用することも可能です。マークの加工については13頁「2-4 基本要素の加工について」をご覧ください。



あくまでひとつの目安ですが、配置するマークの幅の $\frac{1}{2}$ 以上の余白を周囲に確保するよう配置してください。但し配置場所によっては、この余白を確保しない方が良い場合もありますので、適宜判断してください。

※上記配置例は、周囲の空間の取り方について示したもので、配置場所によるマークとタイプの組み合わせパターンを指定するものではありません。

2-3 背景に応じた基本要素の扱い方

◆背景の濃度について

背景の色相・明度によっては、基本色のえんじ色が明瞭に認識出来ない場合があります。背景色の明度をアミ点製版の濃度パーセントで表したものが右の表です。

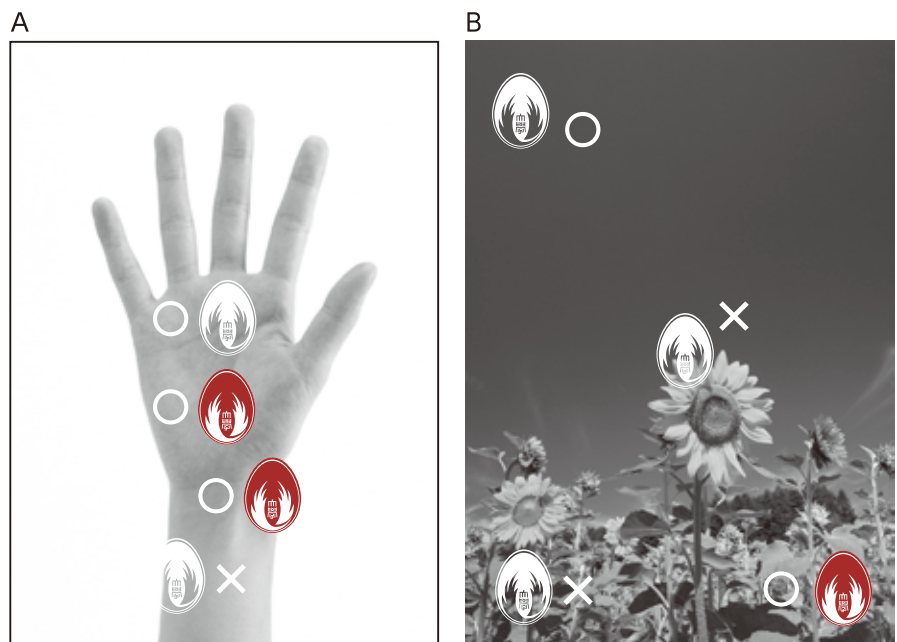
背景が黒やグレーの場合、濃度に関係なくえんじ色は映えますが、赤やオレンジといった同系色が背景で、かつ濃度が一定以上高い場合は、必ずネガ版を利用してください。※斜線箇所は背景とロゴマークの関係が不適当な例です。

20%	40%	60%	80%	100%

◆写真が背景の場合

背景が写真の場合、ロゴマークが明瞭に認識出来るよう、通常のタイプもしくはネガ版を適宜使い分けてください。

但し、ネガ版のロゴマークを用いる際には、特に背景の状態に注意が必要です。A 図手首付近のネガ版ロゴのように、形状が欠けて見えるレイアウトや、B 図のひまわり付近のネガ版ロゴのように、複雑な図像がロゴマークと重なる場合、ロゴマークの形状が明瞭に認識出来ない場合があります。ネガ版ロゴを用いる際には、出来るだけ変化の少ない図像の上に配置するよう心掛けてください。



2-4 基本要素の加工について

基本要素（ロゴマーク及びロゴタイプ）の加工については以下の処理のみ認めます。

- トリム（切り取り）
- 半透明処理（もしくはそれと同等の効果が得られる処理）
- ドロップシャドウ

これらデータの加工を行う際は、ロゴマーク及びロゴタイプの品位や造形性を損なう処理にならないよう、注意してください。

【重要】基本要素を加工した場合、正式な基本要素も同時に掲載してください。

※下図中央及び右側の画像の右下隅のように、正式なロゴマークあるいはロゴタイプを配置してください。

※正式な基本要素は、加工されたものと同一画面上、もしくは容易に確認出来る箇所に配置してください。

【重要】これらの加工を行う場合は、通常の使用申請で構いません。



◆トリム（切り取り）処理

上の3点を見比べてください。BやCはロゴマークの一部が切り取られて配置されているため、Aと比較して、ロゴマークとしての記号性が薄れ、マークを構成する各要素の造形がより強く意識されます。トリム処理によって、ロゴマークの造形性を活かしたデザインの展開が可能です。

◆ドロップシャドウ

頻繁に目にする処理方法ですが、適切に使用出来ないため、文字の可読性や造形性を損ねているケースが多々見られます。

右図の下のように、影は薄め、ぼかし幅や影の移動量が僅かであっても立体的な効果は得られ、なにより可読性が損なわれません。

ドロップシャドウ処理は、控えめな適用を心掛けてください。

◆半透明処理

ロゴマークは輪郭を鮮明に表現するため二階調で作成されています。故に、拡大して配置すると、その輪郭線のコントラストが強すぎて騒々しい印象を与えます。そこで、Cのように半透明処理を施すことによって、コントラストを弱め、全体の印象に落ち着きを与えます。

大阪教育大学

大阪教育大学

2-5 使用禁止例



国立大学法人
大阪教育大学

縦横の比率を変える



国立大学法人
大阪教育大学

要素の一部に拡大・縮小等の
変形を加える



国立大学法人
大阪教育大学

要素の一部を省く



国立大学法人
大阪教育大学

要素に図形・記号・文字等を
組み合わせる



国立大学法人
大阪教育大学
〇〇係

要素の近くに図形や記号
文字等を配置する
※注1を参照して下さい



国立大学法人
大阪教育大学

部分的な色変更



背景にコントラストの強いパター
ン等を配置する
※注2を参照して下さい



国立大学法人
大阪教育大学

輪郭処理をする



国立大学法人
大阪教育大学

傾ける、転がす



国立大学法人
大阪教育大学

グラデーション処理



国立大学法人
大阪教育大学

パターン処理



国立大学法人
大阪教育大学

ぼかし処理



3D処理



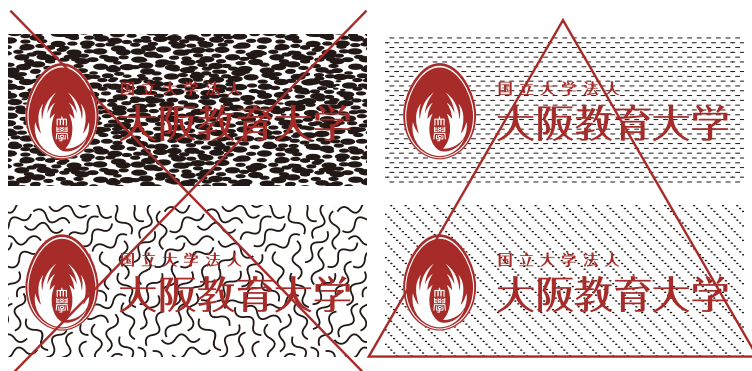
国立大学法人
大阪教育大学

遠近処理・歪み等

注 1) 右図のグレー部分は、基本要素全体を囲む最小の長方形であり、文字や記号、図形等を一切配置出来ない領域を示しています。
この配置禁止領域に関する考え方は、全ての基本要素について共通です。
※ 11 頁「2-2 基本要素の配置について」で述べた余白の確保は、あくまで「推奨」ですが、右図のグレー部分についてはいかなる要素も配置しないでください。



注 2) 背景に相応しくないパターンとは、基本要素の認識を著しく妨げるものです。(×印の例)
一方、基本要素がある程度認識出来るパターンを背景に据えることについては、デザイン上やむを得ない場合に限り認めます。(推奨はしないので△印とします)
背景は「無地」「淡色」を原則とします。



注 3) 右図のように、「大學」の文字内の塗り忘れミスが度々発生しています。小さな要素ですが、マークの中央部分にあたる為、非常に目立ちます。注意してください。

